



2023年4月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年10月14日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2022年10月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第2四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第2四半期	17,871	0.9	1,245	33.9	1,285	11.7	827	37.0
2022年2月期第2四半期	18,028		929		1,151		604	

(注)包括利益 2023年4月期第2四半期 804百万円 (35.6%) 2022年2月期第2四半期 593百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第2四半期	79.05	
2022年2月期第2四半期	57.72	

(注)当社は、2021年2月期第2四半期は非連結での業績を開示しておりましたので、2022年2月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第2四半期	19,616	15,609	79.6
2022年2月期	20,002	15,834	79.2

(参考)自己資本 2023年4月期第2四半期 15,609百万円 2022年2月期 15,834百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期		0.00		100.00	100.00
2023年4月期		0.00			
2023年4月期(予想)				80.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)2022年2月期 期末配当金の内訳 普通配当80円00銭 記念配当20円00銭(創業150周年記念配当)

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,100		3,500		3,500		2,100		200.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、2022年4月14日付「決算期(事業年度の末日)の変更及び定款の一部変更に関するお知らせ」の通り、決算期変更を発表しており、2022年5月20日開催の第54期定時株主総会において、事業年度を毎年5月1日から翌年4月30日までとする変更を決議しております。決算期変更の経過期間となる当期は2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月の変則決算となるため、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期2Q	12,446,700 株	2022年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2023年4月期2Q	1,972,341 株	2022年2月期	1,978,841 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期2Q	10,471,156 株	2022年2月期2Q	10,467,859 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いておりましたが、生活習慣の変化やワクチンの普及に伴い、段階的に行動制限等も緩和され経済活動は以前の状態に戻りつつあります。しかしながら、長期化しているロシア・ウクライナ情勢等によるエネルギー価格及び原材料費の高騰は当面収まらないと思われ、まだまだ厳しい状況は続くと思定されます。

当社グループの属する食関連業界におきましても、原材料費や物流費の高騰による影響は、経費の抑制だけに止まらず、価格改定もせざるを得ない状況に追い込まれる等、厳しい環境となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、DXを活用した構造改革による販売戦略や商品戦略を展開し、売上の確保が厳しい中でも利益が得るような体制づくりに努めました。また、商品開発の他、コンビニエンスストア・冷凍食品メーカーとの取引強化や、有名アニメキャラクターとのコラボ商品の販売等、販路拡大にも注力しました。

出退店・改装につきましては、3店の出店、1店の退店及び3店の改装を行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,871百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は1,245百万円（同33.9%増）、経常利益は1,285百万円（同11.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は827百万円（同37.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、精肉の他に惣菜販売店舗を増やすなど、惣菜事業との連携による店舗展開を図るとともに、自社工場との連携強化にも努めました。

この結果、当事業の売上高は7,058百万円（前年同期比5.1%減）、セグメント利益は619百万円（同4.9%減）となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、商品開発と並行して、「柿安ダイニング 北千住マルイ店」「柿安ダイニング そごう千葉店」「柿安牛めし そごう千葉店」において改装を行い、ショーケース等の売場のリニューアルに加え、当社のこだわりである店内厨房をガラス張りにすることでお客様の視認性をアップさせる等、柿安の魅力を伝える店舗改装を実施しました。

出退店・改装につきましては、2店の出店、3店の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は6,120百万円（前年同期比9.0%増）、セグメント利益は596百万円（同17.0%増）となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、夏の新たな新商品として、お団子にとうもろこしの粒を練りこむことで食感も楽しんでいただける『焼きもろこし団子』を販売いたしました。また、口福堂において、一定期間何度でも商品をお値打ちに購入いただけるパスカード『口福パス』を導入いたしました。

出退店につきましては、1店の出店及び1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は3,102百万円（前年同期比5.0%減）、セグメント利益は381百万円（同47.9%増）となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、グリル業態において、チーズフェアとしてチーズソースをハンバーグにたっぷりかけた『贅沢チーズまみれハンバーグ』を提供する等、おいしさだけでなく見た目にもこだわった料理の提供に努めました。

この結果、当事業の売上高は769百万円（前年同期比19.7%減）、セグメント利益は3百万円（前年同期は150百万円のセグメント損失）となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、コンビニエンスストア向けに『牛めし』『牛すき焼重』等の弁当やおにぎりの具材の提供を行ったほか、有名アニメキャラクターとコラボした商品『牛鍋風 牛肉しぐれ煮』を販売する等、全国的な販路拡大を図りました。

この結果、当事業の売上高は821百万円（前年同期比8.7%増）、セグメント利益は92百万円（同20.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ386百万円減少し、19,616百万円となりました。

流動資産は370百万円減少し、13,194百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少846百万円と受取手形及び売掛金の増加517百万円等であります。固定資産は15百万円減少し、6,421百万円となりました。主な要因は、ソフトウェアの減少31百万円及び繰延税金資産の減少19百万円と工具、器具及び備品の増加30百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ161百万円減少し、4,006百万円となりました。

流動負債は164百万円減少し、3,547百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少390百万円と支払手形及び買掛金の増加225百万円等であります。

固定負債は3百万円増加し、459百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加6百万円等であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ224百万円減少し、15,609百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益827百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少1,046百万円等であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ846百万円減少（前連結会計年度比8.5%減）し、9,104百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は388百万円（前年同四半期は1,261百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,281百万円に対し非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入1,090百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額807百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は189百万円（前年同四半期は106百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出211百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は1,045百万円（前年同四半期は784百万円の使用）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額1,043百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年7月12日に発表いたしました2023年4月期第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,551	9,704
受取手形及び売掛金	2,260	2,777
商品及び製品	293	335
仕掛品	190	206
原材料及び貯蔵品	114	135
その他	154	34
流動資産合計	13,565	13,194
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,046	2,063
土地	2,224	2,224
その他(純額)	528	545
有形固定資産合計	4,800	4,833
無形固定資産	226	195
投資その他の資産		
投資有価証券	111	106
繰延税金資産	250	231
差入保証金	620	626
退職給付に係る資産	250	238
その他	175	189
投資その他の資産合計	1,410	1,392
固定資産合計	6,436	6,421
資産合計	20,002	19,616
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,022	1,247
未払金	315	359
未払法人税等	909	518
未払費用	797	857
賞与引当金	335	330
役員賞与引当金	42	16
その他	291	217
流動負債合計	3,712	3,547
固定負債		
資産除去債務	387	394
その他	67	64
固定負債合計	455	459
負債合計	4,168	4,006
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,080
利益剰余金	16,958	16,739
自己株式	△3,542	△3,531
株主資本合計	15,759	15,557
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△24	△32
退職給付に係る調整累計額	99	84
その他の包括利益累計額合計	75	52
純資産合計	15,834	15,609
負債純資産合計	20,002	19,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
売上高	18,028	17,871
売上原価	8,722	8,247
売上総利益	9,305	9,623
販売費及び一般管理費	8,375	8,378
営業利益	929	1,245
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取給付金	201	30
その他	20	8
営業外収益合計	223	41
営業外費用		
その他	2	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	1,151	1,285
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産除売却損	25	4
減損損失	7	—
店舗閉鎖損失	40	—
その他	26	—
特別損失合計	100	4
税金等調整前四半期純利益	1,052	1,281
法人税、住民税及び事業税	319	427
法人税等調整額	129	25
法人税等合計	448	453
四半期純利益	604	827
親会社株主に帰属する四半期純利益	604	827

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	604	827
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	△8
退職給付に係る調整額	△15	△14
その他の包括利益合計	△10	△22
四半期包括利益	593	804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	593	804

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,052	1,281
減価償却費	250	233
減損損失	7	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△9	△4
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△2	△25
受取利息及び受取配当金	△1	△1
受取給付金	△201	△30
投資有価証券売却損益(△は益)	△1	—
固定資産除売却損益(△は益)	25	4
売上債権の増減額(△は増加)	226	△517
棚卸資産の増減額(△は増加)	△18	△78
仕入債務の増減額(△は減少)	8	225
未払金の増減額(△は減少)	△25	22
未払消費税等の増減額(△は減少)	154	△79
その他	△111	60
小計	1,354	1,090
利息及び配当金の受取額	1	1
法人税等の支払額	△240	△807
給付金の受取額	146	104
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,261	388
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△75	△211
投資有価証券の取得による支出	—	△2
投資有価証券の売却による収入	8	—
差入保証金の差入による支出	△1	△10
差入保証金の回収による収入	53	49
その他	△90	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△106	△189
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△3	△2
配当金の支払額	△781	△1,043
財務活動によるキャッシュ・フロー	△784	△1,045
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	370	△846
現金及び現金同等物の期首残高	7,417	9,951
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,788	9,104

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内販売において、出荷時から顧客への製品移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。

これにより、返品については、過去のデータ等に基づいて予想返品率を見積り、値引き及びリベートについては、実績が確定するまで契約等に基づいて将来の支払額を見積り算出する方法に変更しております。これに伴い、期末日時点で返品等が見込まれる対価を返金負債として計上し、返金負債の決済時に顧客から商品等を回収する権利について返品資産を計上しております。なお、返金負債については流動負債の「その他」に、返品資産については流動資産の「商品及び製品」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3百万円減少し、売上原価は0百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は0百万円減少しております。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,434	5,616	3,263	958	755	18,028	—	18,028	—	18,028
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	773	10	14	0	502	1,301	—	1,301	△1,301	—
計	8,208	5,626	3,278	958	1,258	19,329	—	19,329	△1,301	18,028
セグメント利益 又は損失(△)	651	509	258	△150	115	1,384	—	1,384	△454	929

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△454百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△473百万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「和菓子事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、7百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約か ら生じる収益	7,058	6,120	3,102	769	821	17,871	—	17,871	—	17,871
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	7,058	6,120	3,102	769	821	17,871	—	17,871	—	17,871
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	932	7	14	1	562	1,517	—	1,517	△1,517	—
計	7,990	6,127	3,116	770	1,383	19,389	—	19,389	△1,517	17,871
セグメント利益	619	596	381	3	92	1,693	—	1,693	△448	1,245

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△448百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△465百万円及びその他調整額16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「食品事業」の売上高は3百万円減少、セグメント利益は2百万円減少しております。